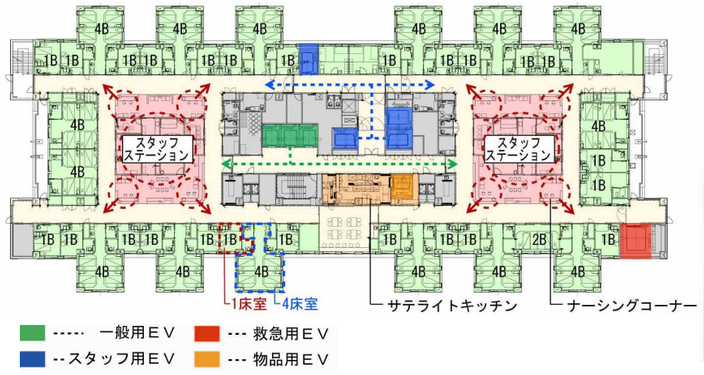
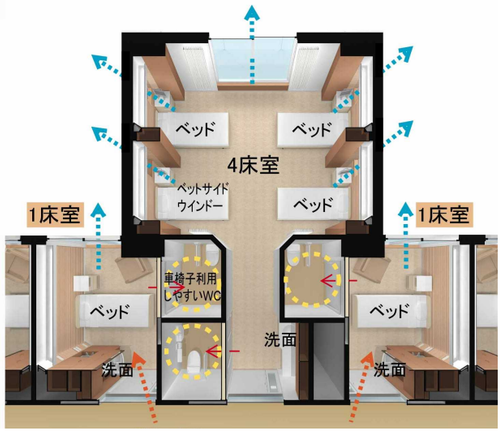
病棟計画

・スタッフステーションの周囲に４床室と１床室を交互に組み合わせて配置することにより、スタッフと病室の距離を短くした病棟計画としています。
・エレベーターホールから病棟への動線は、患者とスタッフとで区分し、動線が交錯しない計画としています。
・病棟各階にサテライトキッチンを設け病棟で再加熱・盛付・配膳を行うことで、入院患者への食事サービスを向上させます。
・４床室は各ベッドサイドに専用の窓を設け、患者アメニティーの向上を図っています。またトイレは車椅子の利用に配慮したゆとりあるスペースを確保しています。
・１床室はトイレの位置を工夫することで、廊下から病室内のベッドにアプローチしやすくし、さらに大きな窓の設置を可能としています。



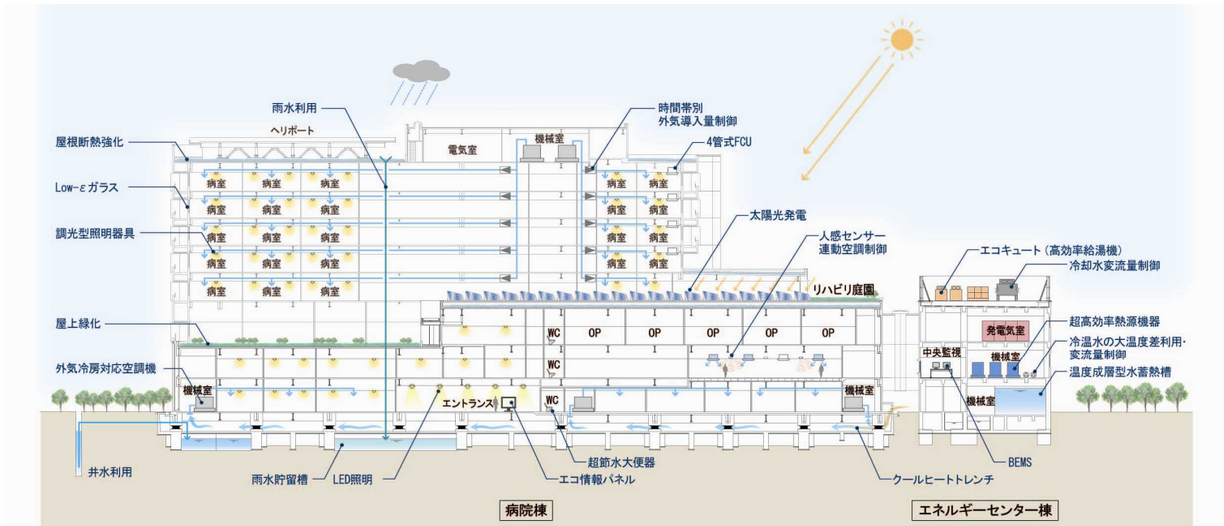
標準的な病棟の平面計画



4床室と1床室を交互に配置した病室

省エネルギー・省ＣＯ２の取組み

・病院の最適な熱源構成、自然を利用する仕組み、経済性の良いシステムの採用により確実な省エネルギーを実現します。
・エコ情報パネルにより省エネルギー技術を地域に紹介したり、技術の相談指導を行うなど、プロモーション活動にも取組みます。
・これらの取組みが認められ、国土交通省より平成 22 年度住宅・建築物省 CO2 先導事業として九州で唯一採択されました。



省 CO2 技術のイメージ図

問合せ先　地方独立行政法人佐賀県立病院好生館　新病院建設部　新病院建設課
電話番号：0952-28-1250　FAX 番号：0952-28-1251

新佐賀県立病院好生館（仮称）移転新築事業
【設計概要】

地方独立行政法人　佐賀県立病院好生館

日建･三島設計業務特別共同企業体
㈱石橋建築事務所
㈱原田設計

青磁をイメージした磁器質タイルを用いた外観

病院の沿革

佐賀県立病院好生館は、安政 5 年（1858 年）第 10 代佐賀藩主 鍋島直正公により『好生館』と命名されました。『好生館』の由来は、中国の「書経」の一節である「好生の徳は民心にあまねし」によっており、最新の医療を必要な人すべてに提供してゆくというこの理念は、150 年の好生館の歴史において途切れることなく伝えられています。

明治 29 年（1896 年）に現在の呼称である『佐賀県立病院好生館』となり、佐賀県唯一の県立病院として、また、地域の中心となる基幹病院として、高度・特殊医療、救急医療、一般医療、医療教育等を担ってきました。

平成 22 年（2010 年）に地方独立行政法人に移行し、この度、既存施設の狭小化・老朽化に伴い、佐賀市嘉瀬地区に新築移転します。

計画概要

計画地

所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字中原
敷地面積	59,846.88 ㎡
駐車台数	約８００台：外来・職員用（内障碍者用 12 台）

主要建物概要

病院棟（エネルギーセンター棟を含む）

病床数	436 床　個室率 37.4%
建築面積	13,321.33 ㎡
延床面積	41,681.40 ㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造　免震構造
階数	地上８階（一部 9 階）
最高高さ	40.60m
予定工事期間	2010 年 8 月～2012 年 12 月

研修･宿舎棟

戸数	病院職員 40 戸、患者家族用及び研修用 10 戸
建築面積	869.85 ㎡
延床面積	2,770.79 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造（耐震構造）
階数	地上６階

計画地の位置図

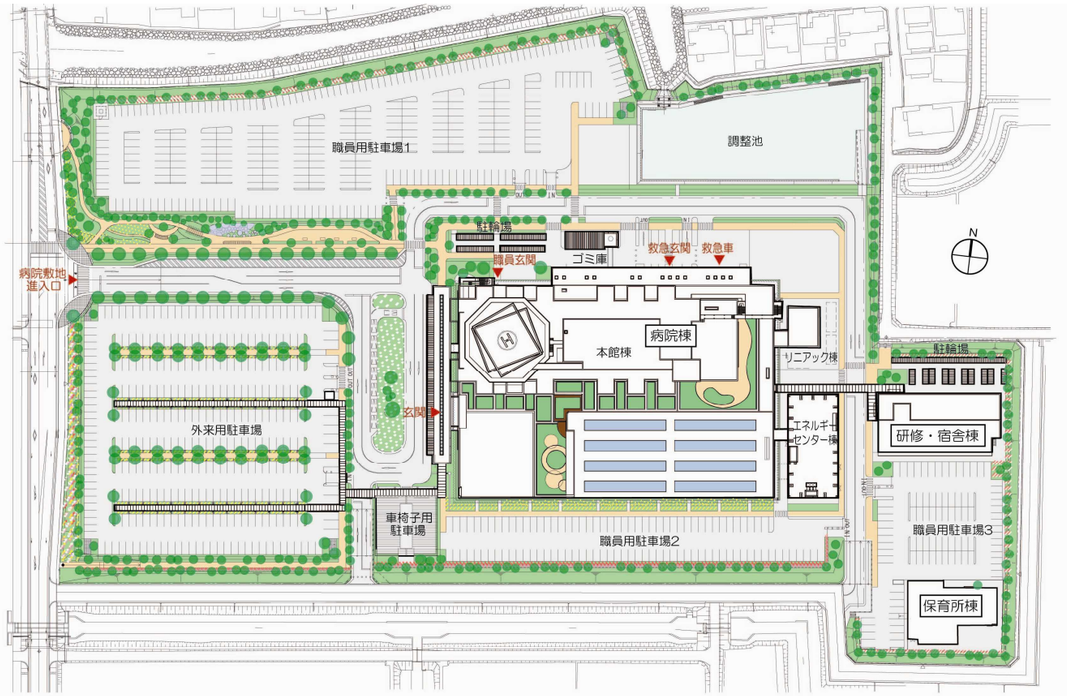
保育所棟

定員	30 名程度
建築面積	554.83 ㎡
延床面積	448.58 ㎡
構造	木造
階数	平屋建

配置計画

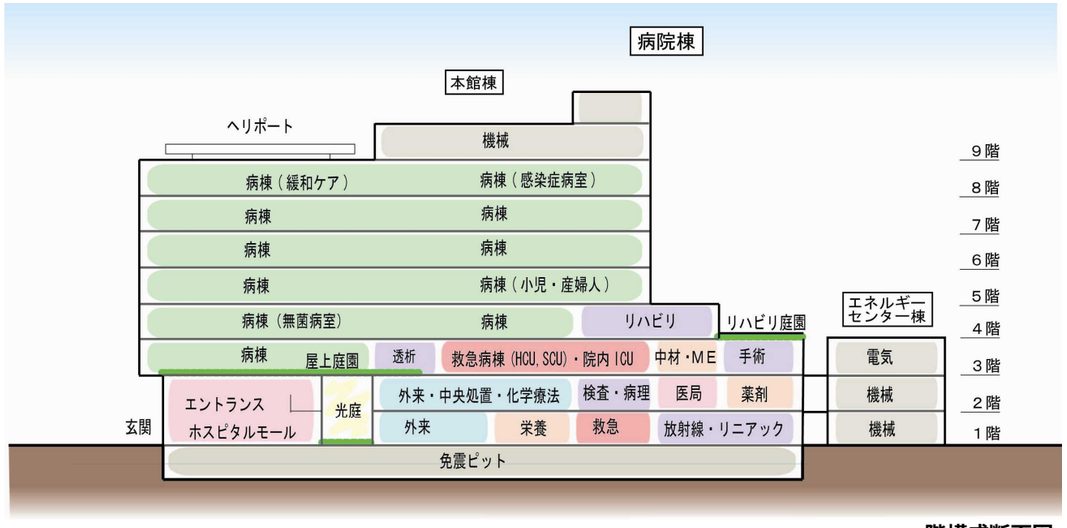
・病院棟は北側の隣接住宅地に配慮し、計画地のほぼ中央で、南に寄せた配置とします。患者用主玄関は前面道路に対して正面となる西側に大きく構え、一方、救急、スタッフ、サービス出入口は北側に設け、両者を明確に区分します。

・西側のアプローチから見て奥にあたる敷地東側には、研修・宿舎棟、保育所棟を配置します。



配置図

病院棟の施設計画・階構成



階構成断面図

各階の主な診療施設の概要

・８階　感染症病室：８室、緩和ケア病棟：２０床

・５階　ＮＩＣＵ：3床、ＮＩＣＵ後方：６床、ＭＦＩＣＵ3床、ＭＦＩＣＵ後方：６床、分娩：２室

・４階　無菌病室：１０室、リハビリ室

・３階　手術室：９室、救急病棟：26 床、院内ＩＣＵ・ＨＣＵ：14 床、透析：20 床

・２階　外来、化学療法：２０床、生理検査

・１階　外来、救急外来、内視鏡、放射線：一般 5 室・透視 5 室・ＣＴ2 室・ＭＲＩ2 室・血管造影 3 室、リニアック：１室